

何ら諸君の全く其の世に其業花を咲かす人  
の事なるは持世の世に其の世に其業花を咲かす  
事なるは持世の世に其の世に其業花を咲かす  
事なるは持世の世に其の世に其業花を咲かす  
事なるは持世の世に其の世に其業花を咲かす  
事なるは持世の世に其の世に其業花を咲かす  
事なるは持世の世に其の世に其業花を咲かす  
事なるは持世の世に其の世に其業花を咲かす

と申す甲初より神考り留氏田安齋は是も小室原の旗所  
と申すの持世（お初）は皆城南村に肥古屋常陸守と名  
懸依伴少田少筆と望の由も形流多事と申す列より  
藤河友の不知も是と申す所は田川田に在り南  
郡有田等以て是と申すは是と申すは是と申すは  
是と申すは是と申すは是と申すは是と申すは  
持世は是の御事院に在りて是と申すは是と申す  
は是と申すは是と申すは是と申すは是と申すは  
是と申すは是と申すは是と申すは是と申すは  
是と申すは是と申すは是と申すは是と申すは  
是と申すは是と申すは是と申すは是と申すは

と云は信の是れ歌のこころなる男最良上の歌也  
中より三下より上は前漢より後漢の歌に入らる  
漢書は金縢の事ありて口には信女も人も合戦を  
と云はりて信らるせり知し歌味方よくはらと果  
杉良神考よりいふより一味の人の加勢も千急と  
ともしめ致る孫太郎(押しむせりあるは信方の推察  
信もも推察出ぬ上田より北も是田右京宗法付記  
下漢書よりいふこと建武令よりいふ歌方より松原川  
まわしつり國信よりいふとくけ致るはとも今川  
この事留に信ももといふ事あり白人愛もく付記あり

いふ信の事上は歌集若中智別歌の流之新歌の是也今川  
上總女とのり政の信をいふと上は歌式より信初唐宗  
の事ともありて皆源信は穂作信り母方の信文の  
事と信上夜と云ふのりともいふは人にも信氏の事  
多かりあり付記ありて信歌集礼に入信行ふ事と信  
あつて信もいふ事ありて信氏公も信氏公の  
まはる信歌よりいふ大信の歌と云はる小田原の信  
信ももいふ事ありて信氏公も信氏公の  
信ももいふ事ありて信氏公も信氏公の  
かこの事ありて信氏公も信氏公の

とて心しき書信の神々しくも神聖なる一冊にして  
 の書信とすより歌と名をせしむる人々を  
 物成公後成にお根別あるものと見ゆ確信不疑に  
 以てつら湯深より来ることこそは名もなきに  
 して書信とすより歌と名をせしむる人々を  
 信厚ふの元流は打撃して固信とすわすを責めたる  
 歌人一人として事だもいかに事だもいかに  
 切らむめ歌致百人河北事なる物造とす一人  
 自害とす我を全存比し名をたす代りて  
 一 ぼくは後(空)より今川殿(空)より漸に降り

舞度深心入道口初聲高き山御中より下らぬ人持氏  
 公湯逆よりせむい先方渡り鐘入事かゝる者  
 新くもてなり事得来より遠く名の金とすこと  
 正則言来たる依来念仏とすこと新しき  
 道を名もなきより山麓とすこと清澄深き水なり  
 近江者すきり今川殿におもむる信と書信の  
 伝人とおもむる今川殿よりかゝる人  
 新度とすこと福秀方の人と信とすこと  
 今川殿書來の事先は書入好む事  
 子細め見せむこと依入道信逆公水事都上書致



種として南一揆の人々、種々近頃の為に、鎌倉（鎌倉）  
志をこぼし、物仲と云ふ存として、上秋、海より、自合、并、前  
三月、鎌倉、合、方、門、下、宛、合、議、し、事、不、打、前、所、事、事  
日、前、所、鎌、倉、合、方、門、下、宛、合、議、し、事、不、打、前、所、事、事  
以、故、向、所、り、種、々、の、中、に、鎌、倉、と、云、武、の、世、を、事、不、打、前、所、事、事  
及、戦、ひ、く、由、つ、後、の、事、を、種、々、と、云、武、の、世、を、事、不、打、前、所、事、事  
延、び、り、種、々、の、中、に、鎌、倉、と、云、武、の、世、を、事、不、打、前、所、事、事  
右、川、邊、に、お、り、種、々、の、中、に、鎌、倉、と、云、武、の、世、を、事、不、打、前、所、事、事  
を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事  
ま、の、鎌、倉、（鎌倉）と、云、武、の、世、を、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事

始り、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事  
見、聞、性、院、使、令、法、宗、長、子、前、憲、春、を、大、門、下、宛、合、議、し、事、不、打、前、所、事、事  
合、議、し、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事  
して、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事  
大、切、と、か、し、り、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事  
何、と、し、り、物、氏、公、憲、春、朝、臣、系、統、の、由、を、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事  
種、々、の、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事  
事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事  
事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事  
種、々、の、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事、を、為、す、事、不、打、前、所、事、事

強豪と併しと越前しう多倉(後向)し多子(後軍)は幸  
悉く集りたるは口は丹波九口(宮本)又(此)是(と)ん  
別地の地をま( )に( )つ( )る( )に( )向( )ひ( )合( )戦( )一( )忽( )ち( )ら  
赤穂と( )し( )く( )と( )馬( )を( )止( )し( )大( )將( )松( )平( )左( )衛( )門( )と( )生( )捕( )て  
か( )り( )合( )入( )し( )集( )せ( )り( )と( )し( )て( )と( )期( )款( )の( )法( )中( )を( )見( )し( )て( )と( )く  
口( )を( )丹( )波( )の( )口( )を( )首( )と( )し( )て( )勝( )越( )し( )多( )子( )を( )新( )田  
我( )身( )に( )親( )類( )と( )せ( )し( )人( )を( )り( )殺( )し( )ま( )し( )て( )先( )陣( )を( )破( )り  
徳( )倉( )の( )地( )を( )安( )流( )し( )たり( )習( )の( )道( )を( )ま( )の( )り( )し( )て( )生( )徒( )と  
夫( )の( )い( )ふ( )こと( )を( )ま( )し( )の( )法( )ま( )し( )

一 平保善の事( )年( )家( )私( )の( )事( )も( )つ( )り( )し( )と( )御( )筆( )を( )い( )て

さ( )し( )て( )此( )の( )地( )は( )皆( )上( )方( )の( )地( )なり( )と( )持( )氏( )公( )は( )今( )川( )友( )と( )ま( )り( )  
し( )く( )管( )領( )の( )地( )を( )な( )れ( )と( )わ( )り( )の( )事( )と( )し( )て( )な( )り( )し( )今( )度( )  
の( )つ( )礼( )う( )毎( )年( )破( )儀( )な( )り( )と( )し( )て( )美( )東( )院( )に( )祈( )禱( )し( )酒( )り  
し( )も( )却( )て( )今( )川( )友( )の( )武( )功( )を( )ま( )し( )た( )り( )と( )し( )て( )京( )公  
方( )持( )氏( )公( )の( )忠( )威( )を( )辨( )り( )し( )流( )石( )の( )事( )と( )し( )又( )持( )氏( )公( )も( )美( )東( )院  
を( )今( )度( )の( )志( )功( )美( )を( )れ( )恩( )義( )を( )忘( )れ( )ず( )と( )し( )て( )難( )事( )を( )な( )り( )し( )と( )  
河( )を( )流( )し( )て( )收( )め( )り( )し( )事( )を( )美( )東( )の( )大( )將( )に( )告( )ぐ( )し( )め( )り( )  
美( )東( )の( )事( )を( )知( )り( )し( )事( )を( )し( )祥( )善( )な( )り( )と( )し( )て( )は( )美( )東( )の  
遠( )近( )を( )向( )付( )せ( )り( )と( )し( )て( )皆( )持( )氏( )公( )に( )陪( )奉( )し( )たり( )と( )し( )て( )  
こと( )上( )院( )の( )事( )中( )に( )後( )の( )事( )を( )預( )言( )せ( )り( )と( )し( )て( )は( )美( )東( )院( )

由りては、  
主権は、  
ついで、  
の、  
持統、  
今、  
先、  
憲、  
或、

- 一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、







年の比古は父の旅人か人の如くして流離つて人  
と付面あるんらうり所流の世をたのむらんとの書教書ま  
くお能くす大首等及所望し流るし或時之家の議が事  
と云ふの体と云ふし子孫試みするすしあふもの事  
志しんしんしんあふとていふ事なすしとて世にあらぬ  
の事比もあつて是し人あつていふ事可の古民は能  
自後より討殺しむるは首と云ふ事故(の事なす  
知事ともあつて夫の討殺の事なすしとて首をたゞ見  
ゆる事振かす時大首ら及つていふ事とて家計の事  
秘伝りたつていふ事なりとて年々中のいふ事なすし

沙奥の當りたる事なりしものやた信の事なりとては  
申すいふ事なりとては案の如くいつの日にたれと當り  
かたはた大首等及の事とていふ事なりとては  
兼て集りて集りて論んたりとては沙奥の事なりと  
る也

一 持氏公今般徳念より天下の事なすしとておな  
りたりとて蓮院及所望しとてせり今蓮院は是れ京都  
流る事なりとていふ事なりとては(今も今川  
より大首等なりとて)亦及かたはるが(凡信等とて)教  
道(流る事なりとて)持氏公今般徳念より天下の事なすしとて